

100年前の実話を描いた  
文豪 新田次郎の小説を映画化

# ある町の 高い煙突

井手麻渡 渡辺 大 小島梨里杏  
吉川晃司 仲代達矢

大和田伸也 小林綾子 渡辺裕之 六平直政 伊崎充則 石井正則 登雪次朗 斎藤洋介 遠山景織子  
篠原 篤 城之内正明 大和田健介 たくみ 稜

主人公の生誕地  
ひたちなか市  
再上映決定!

ひたちなか市文化会館小ホール

令和4年10月29日(土) (開場は各30分前)

[1回目]10時~12時30分 [2回目]14時~16時30分

◎各回ともスタッフ・出演者によるトークショーが  
あり、全体で150分を予定しています!

## 新型コロナウイルス感染症対策

- ・感染症拡大状況によりましては、上映日程の変更や中止等の判断をする場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・当日、発熱や咳など、体の症状に異変がみられる場合にはご来場をご遠慮くださいますようお願いいたします。
- ・当日会場では、必ずマスクの着用・検温・手の消毒など感染予防措置にご協力をお願いいたします。

■前売券(時間別・全席自由席)1,100円(税込)(当日券/一般1,400円、小・中・高生800円)

■プレイガイド ひたちなか市文化会館、ザ・ヒロサワ・シティ会館、京成百貨店、東海文化センター、日立シビックセンター、常陸太田市民交流センター(パルティホール)

【お問い合わせ先】茨城映画センター(☎029-226-3156)、ひたちなか市文化会館(☎029-275-1122)

■主催/茨城映画センター ■共催/公益財団法人 ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社 ■協力/映画「ある町の高い煙突」を応援する会

# 『八甲田山』『劔岳 点の記』の原作で知られる 昭和の文豪・新田次郎が描いた茨城県〈日立鉾山〉の奇跡



〈日立の大煙突と桜並木〉に秘められた“感動実話”を  
日本映画界を支える実力派俳優たちの迫真の競演で  
『天心』『サクラ花—桜花最期の特攻—』の松村克弥監督が映画化！



100年前、明治の終わりに、命をかけて環境破壊と闘い、  
愛と誇りを守った人たちがいた——。

1910年茨城県日立市。世界中で急速な近代化が進む中、急増する銅の需要に応えるべく発展を続ける日立鉾山は、排出する煙に苦慮していた。地元の緑美しい山々は荒れ果て、農作物は次々と枯れていき、廃村の危機を迎えていた。怒りに震える住民たちとの補償交渉もままならない中、村の若き代表者・関根三郎は、鉾山側の窓口である青年・加屋淳平と協力して解決策を模索。その熱意はカリスマ経営者・木原吉之助と国をも動かし、やがて無謀とも言われた世界一高い大煙突建設の夢へとつながっていく…。

主演は、無名塾出身の新鋭・井手麻波。共演には『ウスケボーイズ』でマドリッドとアムステルダム国際フィルムメーカー映画祭で主演男優賞を受賞した渡辺大。ヒロインには『オオカミ少女と黒王子』の小島梨里杏。さらに、日本を代表する名優・仲代達矢、個性派俳優としての地位も確立したアーティスト、吉川晃司らが実録ドラマに厚みを与えている。さらに、伊寄充則、螢雪次朗、小林綾子、石井正則、大和田伸也（友情出演）、六平直政、渡辺裕之、斎藤洋介ら、日本のエンターテインメントを支える実力派俳優が集結した。監督は、復興支援映画として完成させた『天心』や『サクラ花—桜花最期の特攻—』で、ヒューマンドラマの名手として高く評価された松村克弥。

地球規模での環境問題が深刻化し、CSR（企業の社会的責任）が最も重要視されるようになった21世紀の今、100年前に対立するもの同士が、生命に関わる公害被害を未然に防いだことは、茨城県が誇る歴史的事実であり、ひとりでも多くの人々に届けたい感動の実話である。



現在のJXTGグループ、日立製作所、日産自動車など日本の発展に大きく寄与した  
春光グループの源流である日立鉾山(現・JX金属)の魂の物語。

## 実在の人物



**関 右馬允 (せきうまのじょう)**  
1888年-1973年。茨城県生まれ。茨城県の入四間(いりしけん)村(現・日立市)の煙害対策委員長に若くして就任。進学も外交官になる夢もあきらめ35年間、煙害防止と環境保全、そして補償交渉に取り組んだ。



**角 弥太郎 (かど やたろう)**  
1869年-1965年。広島県生まれ。日立鉾山の庶務課長として、村民への煙害被害の補償交渉に当たった。誠意を持った交渉で事態の解決に専心。煙害に強い桜など、500万本の市内植林運動を提唱した。

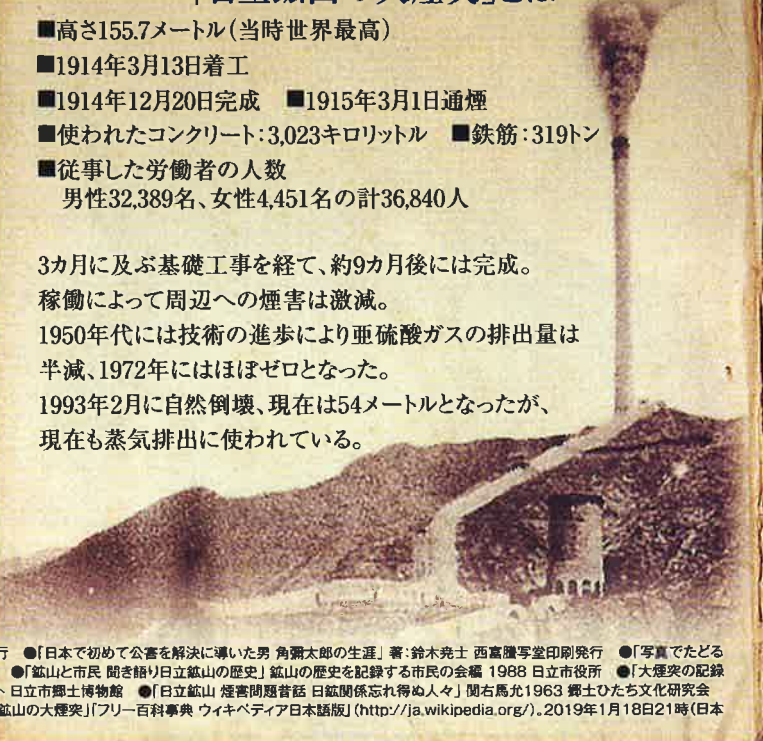


**久原 房之助 (くはら ふさのすけ)**  
1869年-1965年。山口県生まれ。1905年に赤沢銅山を買収、日立鉾山に改称し開業した。「一山一家(いちざんいっか)」と呼ばれる風土を生み出し、従業員とその家族との連帯感を是とした。1928年に立憲政友会に入党、衆議院議員に初当選し、通信大臣に任命。1939年には立憲政友会総裁に就任した。

## 「日立鉾山の大煙突」とは

- 高さ155.7メートル(当時世界最高)
- 1914年3月13日着工
- 1914年12月20日完成 ■1915年3月1日通煙
- 使われたコンクリート:3,023キロリットル ■鉄筋:319トン
- 従事した労働者の人数  
男性32,389名、女性4,451名の計36,840人

3カ月に及ぶ基礎工事を経て、約9カ月後には完成。稼働によって周辺への煙害は激減。1950年代には技術の進歩により亜硫酸ガスの排出量は半減、1972年にはほぼゼロとなった。1993年2月に自然倒壊、現在は54メートルとなったが、現在も蒸気排出に使われている。



※引用、参考資料 ●「天馬空を行く久原房之助物語」画:田中誠 文:吉成茂/公益財団法人日立市民文化事業団発行 ●「日本で初めて公害を解決に導いた男 角彌太郎の生涯」著:鈴木亮士 西高麗写堂印刷発行 ●「写真でたどる日立百年のあゆみ」日立市郷土博物館発行 ●「調査報告書 日立のざくら-ルーツとあゆみ-」日立市郷土博物館 1998 ●「鉾山と市民 聞き語り日立鉾山の歴史」鉾山の歴史を記録する市民の会編 1988 日立市役所 ●「大煙突の記録-日立鉾山煙害対策史-」日鉾金属株式会社編 1994 ●「郷土の発展につくした人々」日立市郷土博物館解説リーフレット 日立市郷土博物館 ●「日立鉾山 煙害問題普話 日鉾関係忘れ得ぬ人々」関右馬允1963 郷土ひたち文化研究会 ●「カメラでつづった半世紀」『写真集 カメラでつづった半世紀』編集委員会1987 (財)日立市民文化事業団 ●「日立鉾山の大煙突」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』(http://ja.wikipedia.org/)..2019年1月18日21時(日本時間)現在での最新版を取得 協力:日立市長公室広報戦略課シティブロモーション推進室/日立市郷土博物館

「ある町の高い煙突」2019年/日本映画/カラー/130分/シネマスコープサイズ/5.1ch/配給:エレファントハウス/Kムーブ ©2019 Kムーブ



環境省  
Ministry of the Environment

美しい空を未来に伝えましょう



映画「ある町の高い煙突」は、  
SDGs(持続可能な開発目標)の  
普及促進に協力しています。